

職員による自己評価

A 環境面

- ・スペース確保は利用者増加に伴い、工夫している。
- ・バリアフリー化の配慮については、1 階で、ほぼフラットな環境。施設構造上やむを得ずトイレに段差がある。現在の利用児童に対しては支障なし。

B 児童への支援内容

- ・プログラムに関して、職員間での共有・立案、運用・実践については、しっかり取り組んでいる。

C 関係機関との連携

- ・今後更に充実させていく必要があるが、学校や相談支援、他事業所との連携は行っている。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・意思の疎通や情報伝達の配慮は適切。
- ・保護者会の開催については、コロナの影響で中止していたが、次年度より再開予定。

E 非常対応

- ・非常災害に備え、定期的に必要な訓練を行っている。
- ・対応マニュアルや研修、訓練の更に周知・徹底が必要。

保護者による評価

A 環境面

- ・スペースは確保されていると認識。バリアフリー化についてはニーズとして特にあがってはいなかった。
- ・職員の配置・専門性については、適切との評価。

B 児童への支援内容

- ・計画書作成とプログラム内容については、適切と評価。
- ・交流の機会はないが、ニーズとしても出ていない。

C 事業所からの情報発信

- ・意思の疎通や情報伝達の配慮、共通理解については、高評価。

- ・保護者会の開催等保護者同士の連携支援については、ニーズはあるが、コロナ禍以降、実施が難しいのは仕方がないという意見が多数。

- ・苦情対応は特に問題なし。

D 非常対応

- ・マニュアル策定・周知は適切と評価。
- ・訓練実施については高評価。

〈 その他 〉

- ・支援への満足度については、高評価。

事業所内での分析

【共通点】

◆ 良い面

- ・職員配置や支援の内容については、保護者・職員双方とも概ね適切と評価されている。
- ・子どもや保護者との意思の疎通・情報伝達の配慮、共通理解についても、高評価だった。
- ・バリアフリー化・スペース確保は、移転に伴い問題がほぼ解消され、今後はスペース使用の工夫が必要である。

◆ 改善点

- ・保護者支援、保護者同士の連携等は、双方ともニーズを感じており、今後は、保護者会の開催等、感染予防等を工夫して実施する必要がある。

【相違点】

- ・保護者と職員の間での相違や認識のずれ等は特に見られなくなっている。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・新施設と単位増により、利用者それぞれに適切な対応や環境の整備を行っていきける。
- ・職員間の意思疎通、共通理解が図られ、日々の取り組みに活かされている。
- ・プログラムや支援内容について、適切と評価され、利用者・保護者の満足度は高く評価されている。
- ・保護者との共通理解、意思の疎通や情報伝達等について、高評価を得ている。
- ・関係機関との連携が出来てきている。
- ・緊急時や感染症等の対応について、訓練やマニュアル等の充実が図られてきている。

### 事業所の改善点

- ・感染症対応や緊急時等のマニュアルを更に周知、徹底し、充実させていく。
- ・他施設や地域との交流機会の拡充。
- ・会報やホームページ等による保護者への発信の強化や周知を更に改善。
- ・関係機関との連携の充実。
- ・個別課題の設定やプログラム内容の充実。
- ・計画作成にあたっての、アセスメント・モニタリングの共有と実践の強化。
- ・初任者研修、虐待防止・身体拘束等の研修、その他様々な研修の充実とスキルの上昇。

### 事業所の改善への取り組み

- ・プログラムについて、更に幅を広げ、様々なニーズに対応し、改善工夫を行っていく。
- ・感染症対応や緊急時のマニュアルを更に整備し、保護者に周知するとともに、家庭・学校との連携や情報交換を密に行っていく。また、職員間でも共有・実践していく。
- ・保護者支援や保護者同士の連携支援の充実、場の持ち方の工夫を図る。
- ・会報・ホームページ等による発信を更に充実させていく。
- ・関係機関との連携や他施設・地域との交流を密にしていく。
- ・職員のスキルアップ（研修参加と実践）を更に充実させていく。
- ・デイサービス計画書作成や支援内容に関して、更に職員間の共有と実践を強化していく。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

開設8年目の今年度は、感染症予防対応を継続しつつ、以前行っていた活動を工夫して取り戻したり、新たな取り組みを試したりしていく1年となった。また、昨年度5月に単位を増やし、利用者が増えていく中で、より一層環境を整え、プログラムの充実を図っていく年度となった。

来年度も、様々なニーズと課題をしっかりと把握し、工夫と改善を行っていきたい。また、保護者の皆様や関係機関のご理解とご協力の中で、活動を継続してこられたことに感謝し、今後も、ご家族とともに子ども達が安心して楽しく過ごせる場となれるよう取り組んでいきたい。

事業所名 プレップサポートセンター釜利谷東

担当者 滑川 まどか